

2020年 8月 6日

需要家 各位

湘南生コンクリート協同組合



暑中期における生コンクリートの納入について

近年の地球温暖化による異常気象の影響により、神奈川県下においては、最高気温が35℃を超える猛暑日が多くなってきております。この影響に加えて、運搬中および待機時間における直射日光の影響やセメントの水和反応進行による発熱の影響を受け、コンクリート温度が上昇することが懸念されます。このため、現場荷卸し時のコンクリート温度は35℃を超える可能性があり、弊協組組合員工場においても何らかの暑中コンクリート対策は実施しておりますが、決定的な対策がなく気温の上昇に伴うコンクリート温度を制御することはとても困難な状況にあります。

暑中期のコンクリートに関しては、日本建築学会「暑中コンクリートの施工指針・同解説」が2019年に改定され、コンクリートの性能が低下しないよう適切な対策を講じることにより受入時のコンクリート温度の上限値は38℃にできると記載されています。

また、JIS登録認証機関では、コンクリート温度の上限値を38℃に社内標準化することでJIS規格適合品として認めています。

弊協組組合員は、全ての工場で社内規格を改定し、JIS登録認証機関の承認を得ており、荷卸し時のコンクリート温度が38℃以下であれば、JIS規格上問題がない体制を整えています。しかし、納入現場で受入基準を「35℃以下」とされている場合、工場はJIS規格適合品として品質に問題のない生コンクリートを出荷しても、現場の基準によって受け入れを拒否されることとなります。

このような状況では現場にご迷惑をお掛けする事態の発生が考えられることから、工場は生コンクリートの納入をご辞退させていただくことがありますことをご承知おきください。

需要家各位におかれましては、コンクリート温度が35℃を超えた場合の対応について代行販売店の担当者様とよくご相談いただき、ご指示くださいますようお願いいたします。

近年、夏期の外気温が高くなる傾向にあることから、暑中期における生コンクリートの納入に関しまして是非ともご理解とご協力をお願いいたします。

以上